

7月月例労働経済報告のポイント

一般経済

- 景気は、厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる。
 - ・ 輸出、生産は、持ち直している。
 - ・ 企業収益は、極めて大幅に減少している。設備投資は、大幅に減少している。
 - ・ 雇用情勢は、急速に悪化しており、厳しい状況にある。
 - ・ 個人消費は、このところ持ち直しの動きがみられる。

- 先行きについては、当面、雇用情勢が悪化するなかで、厳しい状況が続くとみられるものの、在庫調整の一巡や経済対策の効果に加え、対外経済環境の改善により、景気は持ち直しに向かうことが期待される。一方、生産活動が極めて低い水準にあることなどから、雇用情勢の一層の悪化が懸念される。加えて、世界的な金融危機の影響や世界景気の下振れ懸念、金融資本市場の変動の影響など、景気を下押しするリスクが存在することに留意する必要がある。

労働経済

- 労働経済面をみると、雇用情勢は、急速に悪化しており、厳しい状況にある。
 - ・ 5月の完全失業率（季節調整値）は5.2%で、4ヶ月連続で前月差で上昇（0.2ポイント上昇）。
 - ・ 労働力人口（原数値）は6,689万人で、3ヶ月連続で前年同月差で減少（59万人減）。
 - ・ 就業者数（原数値）は6,342万人で、16ヶ月連続で前年同月差で減少（136万人減）。
 - ・ 雇業者数（原数値）は5,478万人で、3ヶ月連続で前年同月差で減少（98万人減）。
 - ・ 有効求人倍率（季節調整値）は、0.44倍（前月差0.02ポイント低下）。
 - ・ 新規求人倍率（季節調整値）は、0.75倍（前月差0.02ポイント低下）。
 - ・ 現金給与総額（原数値・速報）は267,395円で、前年同月比2.9%減。